

日本看護歴史学会 會報

日本看護歴史学会
第37号
2001年10月15日

看護史を旅する

小玉 香津子

名古屋市立大学看護学部で開かれたこの夏の大会に際し、「看護史の旅」の写真展を開かせていただいた。一九八九年からの十年間に六回、西洋看護史をたずねて十九世紀までのヨーロッパとその周辺を旅した記録を、厚かましくもご覧に入れた。写真はすべて、リーダーの高田みつ子氏はじめ旅の仲間の作。私は、一度たりとも写真を撮らない、結果的にずうずうしい旅人であった。ふざけて「印象主義」などと云い、実際、その時その場に五感を集中させて得たイメージは、写真よりも鮮明に残ると思っっているが、旅のあとに誰彼のお恵みくださる写真を手に、はっと新たな気づきをするのもしばしばであることは告白しなければならぬ。もちろん、写真が旅の全

容を反すうするための有用な手立てであることは間違いない。それで「厚かましくも」の写真展と相成った。

最初の二回を「ナイチンゲールゆかりの地を訪ねる」と題したように、我々は単純に、自分の目で現物を見る、その地に立つことを目的に旅を始めた。事前の資料調査により、見どころ立ちどころ（？）は細部にわたって確かめておいたから、旅ごとに、我々の知識としての看護史は広がっていった。しかし、「キリスト教と看護のつながりをたずねる」「中世の巡礼路を行く」あたりから、何かを見たより、どこかに立ったりするということ、我々が自らを看護史に投げ込むのだと実感するようになって思う。そう、「看護史の旅」

は「看護史を旅する」に変わったのである。しょってるにも程があるとお互いに笑いつつ、我々はヒストリアンとなり、気分はヘロドトスであった。いつの間にか自在に看護史を旅していた。

「看護史の旅」から「看護史を旅する」への脱皮は、我々の見たり立ったり、ましてや写真に撮ったりが、「我々が発見する」というニュアンスをもつ、さまざまな出会いに変わったことを意味する。イタリアはアッシジの町はずれで、地元の人々が聞いたこともないと云っていた十二、三世紀のらい病院跡を、文字通り発見した我々は、聖フランシスコが己れに打ち克つてらしい者に手をさしのべた日へと、時を駆けた。スペインのパンブローナでは、中世の看護を探していた我々は二十世紀生まれのオプス・デイ（神の仕事）活動に出会った。普通の社会生活をしながら信仰の実践として、病院等で患者や老人の世話に打ち込むカトリックの人々である。我々の思いは、人間の精神と行動の二千年にわたる軌跡をめぐった。そして、サレルノで見つけた「養生訓」、クリミアの歴史家の手になる「バラクラヴァ」といった書物との出会いは、旅のあとにまなび、我々に看護史を旅させてやまない。

第一六回大会予告

◆開催期日
平成一四年八月三十一日(土)
九月一日(日)

◆テーマ
「日本と世界の看護史を探求する」

◆会場
山形県立保健医療大学保健医療学部看護学科

◆内容

第一日目

講演一 高田みつ子「ナイチンゲールの看護を訪ねて」

講演二 未定

研究発表(口演とポスター)

総会・懇親会

第二日目

看護史研究放談会

分科会

パネル展一 ナイチンゲールの

旅

パネル展二 日本の看護史

パネル展三 日本の助産婦史

◆研究発表の申し込み

演題締切日・平成一四年四月一

〇日(当日消印有効)

演題申し込み方法・演題名と氏

名、所属、会員番号、連絡

先を記入した官製はがきに

て申し込んでください。

抄録提出・六月末日

◆大会事務局

〒九九〇一九五八五

山形市飯田西二二二

山形大学医学部看護学科

高橋みや子宛

特別講演

私のマリー・キュリー研究

名古屋市立大学名誉教授

大場 寛

今日、多くの患者への福音となっている放射能の医学的利用へのこれまでの道のりは、約百年前の一八九五年十一月八日の金曜日のX線発見からの発見発明物語が延々と続いた結果である。X線発見に続いて自然放射能、ラジウムなどの放射性物質、電子、アルファ線、ベータ線、ガンマ線などの放射能の発見が続き、原子核の発見、さらに素粒子の発見と続くが、その大部分は真実の追試から新しい発見があるので、これらの発見発明物語の歴史は線として繋がっているはずである。我々はいろいろな発見発明物語や、歴史を断片的に知っている。歴史を学ぶ者にとっては点としての知識が線として結ばれてくる過程が知的好奇心を刺激する点であり、私もその魅力に取りつかれたのである。

X線の発見があつて、その人体への応用から、放射線科学という学問体系が生まれ、放射線医学を専門職として選んだ私の今日があるところから、私の放射線科学史

への探索の第一歩が踏み出された。積極的に調べてみようと思ひ立ったのは一九九五年のX線発見百周年、一九九七年のラジウム発見百周年であった。このような記念する年には世界各地でX線や放射線あるいはその発見者に関する記念行事が行われ、発見にまつわる史実が発掘されたり、その発見者の新しい人物像を描いた本も出版されたり、発見にまつわる史実が発掘されるものである。そのチャンスを大いに活用すべきであるというわけで、記念行事を求めて旅に出た次第である。クリスチャンがキリストの聖地エルサレムに足を運ぶことによって、聖書の世界を追体験して信仰が深まるように、発見発明にまつわる場所へ行ってみると、書物の上では得ることができない新しい感動や情報が得られて、より深く、より身近に歴史上の人物と接することができるのである。

ラジウム発見百周年の年にはマリー・キュリーが物理や数学を学んだソルボンヌ大学、サント・ジュヌヴィエーブ図書館、ピエール・キュリーと出会った下宿、ポロニウム、ラジウムをウラン鉱石から抽出したパリ市立工業物理化学学校、ウランから自然放射能を発見

したベクレルが働いていた国立自然史博物館、キュリー博物館、キュリー夫妻の亡骸が安置されているパンテオンなどがあるパリ5区のカルチェ・ラタンの歴史探訪を通じてマリー・キュリーの生涯を見直してみたいと考えている。

(詳細は日本看護歴史学会誌に掲載予定)



「私のマリー・キュリー

研究」を聴いて

多喜田恵子

大場先生の講演は、ラジウム発見の功績だけでなく、科学者として生き方や研究に対する情熱など

胸に熱いものを感じるお話でした。また、講演後の討論では、知的好奇心をもつことや調べたことは記録に残すことなど、歴史研究を進める上での示唆に富んだお話を聴くことができました。歴史を学ぶことは、新たな発見や感動を得ることだと言います。今後も、知的好奇心を刺激しながら、自己の歴史観を深めて行きたいと思ひます。

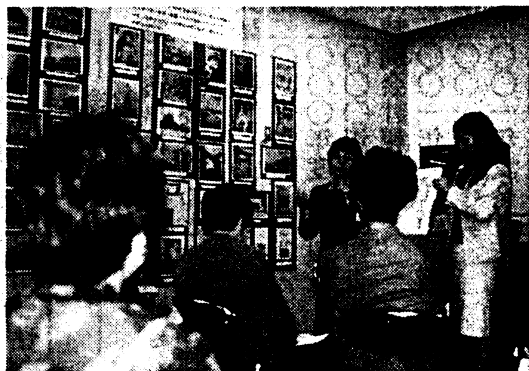
写真展

「看護史の旅」

クリミア半島バラクラバの丘

城郭病院の跡地





展示・分科会会場



ナイチンゲールゆかりの地
リハースト荘(ダービシャー州)

「分科会発表」

ライター 島崎玲子

今回の分科会で「GHQ公衆衛生福祉局の設立と看護改革」と題して報告しました。看護改革は、どのような過程で政策が策定され、どのように地域に浸透していったかに焦点をあてました。米国の看護婦は日本の看護婦を専門職として育てようとしたのです。そこで後半の時間を利用して、

- (1) 現在の看護婦は専門職か
- (2) 准看護婦制度は廃止すべきかで Debate しました。結論は出ませんでしたでしたが看護婦(士)、出版社の方、名古屋市立大学の学生さんも参加し、活発な意見交換が出来て有意義で楽しい会になったと思います。

「分科会に出席して」

日下 修一

ライター 島崎先生の分科会に出席し、当時の人物関係やGHQの看護政策がいかに現在の看護の専門性に影響を与えているかが再認識できた。後半では「看護の専門性」と「准看護婦問題」について二グループに分かれてディベートを行い、惜しむらくは参加者がディベート形式に慣れていなかったため、多少の齟齬は生じたものの、現状を振り返る上で、大変参考になる内容だった。

「研究発表」

座長 山本 捷子

今大会では四題の研究発表が行われたが、外国看護史、保健婦、准看護婦、産婆の四領域からは興味深い報告がされた。中でもナイチンゲールの活躍で有名なクリミア戦争では、ロシアには既に組織化された看護団や個人的看護ボランティアが存在したこと、高校衛生看護科は文部省の学習指導要領と看護制度の変化に左右されて変遷していることが印象深く、考えさせられた。またいずれも時代の社会思想的背景を吟味する重要性が指摘された。

〈演題・発表者氏名〉

- 一、「一九世紀ロシアにおける女性医療職の形成」 佐藤 淑代
- 二、「岡山における保健婦養成事業——社会事業主事守屋茂の足跡より——」 徳川早知子
- 三、「高等学校衛生看護科の変遷」 村田三加幸他
- 四、「山形県における近代産婆制度成立過程に関する研究」 高橋みや子他

日本看護歴史学会

一五回大会の収支決算報告
今年八月名古屋で開催されました一五回大会の収支決算を左記のとおり報告します。

日本看護史学会第15回大会 決算報告

収入の部

費目	金額	内 訳
参加費	458,000	119名(学生含む)
懇親会費	168,000	
合計	626,000	

支出の部

費目	金額	内 訳
講師謝金代車	105,000	
印刷費	130,700	大会抄録集
通信費	40,780	大会案内送付
事務費	18,841	用紙代等
会場設営費	41,708	展示用物品等
人件費	107,500	アルバイト代等
接待費	46,471	30名
懇親会費	135,000	
合計	626,000	

事務局からのお知らせ

総会での決定事項

総会議事はすべて、承認されました。概要は次のとおりです。

〈議事〉

- (1) 二〇〇一年度活動報告
- (2) 二〇〇〇年度決算報告
- (3) 二〇〇〇年度会計監査報告
- (4) 特別会計報告
- (5) 二〇〇一年度活動計画
- (6) 二〇〇一年度予算
- (7) 二〇〇一年度会計監査の選任
- (8) 第六期幹事選挙管理委員の選任
- (9) 日本看護歴史学会機関誌編集規程および投稿規程改正、編集委員会内規
- (10) 第一六回大会（二〇〇二年）開催について

〈二〇〇一年度活動計画〉

- 一、会報発行…二回
(第三六号、三十七号)
- 二、学会誌発行…
第一三・一四合併号、一五号
- 三、大会開催…第一五回大会
「看護史をひろげる」
名古屋にて、二〇〇一年八月二四日、二五日
- 四、幹事会の開催 二回
- 五、編集委員会の開催 四回
- 六、第一六回大会の開催（二〇〇二年八月三〇日（金）八月三一日（土））山形市

大会責任者 高橋みや子
第一七回大会の開催
(二〇〇三年八月下旬予定)

青森市 大会責任者

ライダー島崎玲子

- 八、特別会計の運用について
- ① 日本看護歴史学会誌一号、一〇号復刻版の作成
- ② 日本看護歴史学会編「日本の看護百年の歩み」二〇周年記念事業に向けて改訂版の作成
- ③ 大会準備金として二〇万円貸し出し

〈平成十三年度会計監査〉

山田 泰子 氏（名古屋）
片桐 智子 氏（山形）

第一五回大会は、台風でやきもきしたものの当日は晴天に恵まれ、参加者は一〇名、総会出席者三五名、懇親会参加者は五六名でした。楽しく爽り多い二日間でした。名古屋の皆様ご尽力ありがとうございました。（感謝）

会員著書紹介

吉川龍子著
「日赤の創始者佐野常民」
歴史文化ライブラリー一八
四六版（二三八頁）、七〇〇円
日本赤十字社の創始者、佐野常民の伝記！

日本看護歴史学会 2001年度予算

収入の部 '01.4.1~'02.3.31 (単位 円)

項目	予算額	摘要	前年度決算額
会費	680,000	4,000×170名	644,000
寄付金・その他	0		48,226
前年度繰越金	1,008,373		1,031,971
合計	1,688,373		1,724,197

支出の部 '01.4.1~'02.3.31 (単位 円)

項目	予算額	摘要	前年度決算額
幹事会開催費	200,000	年2回	156,900
編集委員会開催費	100,000	年4回	
出版費	860,000		337,050
会報発行費	(60,000)	年2回	(39,900)
学会誌発行費	(800,000)	第13、14合併号 第15号	(297,150)
会員名簿作成費	100,000	(1回/3年)	0
事務経費	370,000		221,872
印刷費	(50,000)		(21,000)
通信費	(170,000)	会報2回 学会誌1回	(97,570)
文具・その他	(150,000)	アルバイト代 テープおこし代含む	(103,304)
予備費	58,373		0
合計	1,688,373		715,824

日本看護歴史学会 2000年度会計報告

収入の部 '00.4.1~'01.3.31 (単位 円)

項目	予算額	決算額	差引額
前年度繰越金	1,031,971	1,031,971	0
会費	680,000	644,000	36,000
		会員141口 新入会員20口	
寄付金その他	50,000	48,226	1,774
		会誌等売上(48,226) 印税(0)	
合計	1,761,971	1,724,197	37,774

支出の部 '00.4.1~'01.3.31 (単位 円)

項目	予算額	決算額	差引額
事務経費	370,000	221,874	148,126
印刷費	(50,000)	(21,000)	
通信費	(170,000)	(97,570)	
文具、その他	(150,000)	(103,304)	
幹事会開催費	200,000	156,900	43,100
出版費	360,000	337,050	22,950
会報発行費	(60,000)	会報34号(19,950) 会報35号(19,950)	
学会誌発行費	(300,000)	会誌12号(297,150)	
会員名簿作成費	0	0	0
予備費	831,971	0	831,971
合計	1,761,971	715,824	1,046,147

次年度への繰越金
収入額1,724,197円 - 支出額715,824円 = 1,008,373円

(会計監査報告)
監査の結果、上記報告書は日本看護歴史学会の2000年度の収支を適正に表示していることを認めます。
平成13年7月17日 会計監査 滝下幸栄 印
平成13年7月23日 会計監査 細越幸子 印

日本看護歴史学会

機関誌編集規程

- 一、機関誌の名称は「日本看護歴史学会誌」(以下、「学会誌」とする)とする。
- 二、学会誌は、原則として毎年一回(三月)発行する。
- 三、学会誌は、看護歴史に関する研究論文、書評、および大会報告等を掲載する。
- 四、学会誌の企画編集は、編集委員会を経て決定する。
- 五、編集委員会については別に規を定める。
- 六、研究論文の投稿原稿については、査読を行うものとする。
- 七、執筆者による校正は再校までとする。その際の本文の内容に関する修正は原則として認めない。但し、編集委員会の判断により補遺を認めることがある。
- 八、学会誌に掲載された研究論文その他の原稿は、原則として返還しない。また、掲載されたものの版權の一切は本会の所屬とする。
- 九、学会誌の体裁はA5版とし、原則として縦書き二段組とする。
- 一〇、本規定の改正は幹事会の議を経て決定するものとする。

一九八七、一一 制定
一九九〇、一 改正
二〇〇一、八 改正

日本看護歴史学会誌

投稿規程

- 一、研究論文の投稿は、日本看護歴史学会会員に限る。
- 二、研究論文の投稿は、未発表のものとする。
- 三、原稿は、原則としてB5版四〇〇字詰め縦書き原稿用紙、五〇枚以内とする。
- 四、論文原稿には必ず四〇〇から八〇〇字の要約を添付する。
- 五、原稿には表紙を付し、標題、英文標題、著者名、所属機関名、連絡先を明記し、学会事務局宛送付する。
- 六、編集委員会が特に必要と認められる場合には、掲載料を徴収することがある。また、別刷りの作成は実費とする。
- 七、応募原稿の締め切り期日は、毎年九月末日とする。
- 八、本規定の改正は幹事会の議を経て決定するものとする。

一九八七、一一 制定
一九九〇、一 改正
二〇〇一、八 改正

日本看護歴史学会学会誌

編集委員会内規

- 一、日本看護歴史学会編集委員会(以下、編集委員会とする)は、編集担当幹事及び同幹事の指名により五〜六名の委員で構成する。
- 二、編集委員会の役割は、次の事項とする。
- 1、学会誌の企画・編集に関すること
- 2、原稿の依頼に関すること
- 3、査読に関すること
- 4、原著論文の別刷に関すること
- 5、その他、学会誌編集に関すること
- 三、編集会議は、原則として年二回以上開催する。
- 四、査読は、一編につき複数名で行う。投稿原稿の内容により、それに適した査読者を編集委員会で検討し依頼する。
- 五、本内規の改正は幹事会の議を経て決定するものとする。

二〇〇一、八 制定

新入会員紹介(敬称略)

※()内は会員番号

山田 泰子(011009)
〔名古屋市立大学看護学部〕

2000年度特別会計報告

(総務)

1. テレフォンカード売上収支 (8月27日現在)

	1999年度末 残数	2000年度末 残数	2000年度売上	
			売上数	売上金
看護婦	135	26	109	87,200
保健婦	82	39	43	34,400
助産婦	190	147	43	34,400
合計	407	212	195	156,000

2. 特別会計収支

	収入	支出	合計
前年度繰り越し	1,313,472	0	1,313,472
テレフォンカード売上	156,000	0	1,469,472

◆本会の出版物をお求めの方は、事務局へお問い合わせ下さい。
『日本看護歴史学会会報』『日本看護歴史学会誌』欠号を復刻しましたので全号揃いました。
佐藤喜根子(011010)
〔東北大学医療技術短期大学部〕
本間 景子(011011)
〔済生会川口看護専門学校〕
河津 芳子(011012)
〔名古屋大学医学部保健学科〕
岡田由岐子(011013)
〔京都中央看護専門学校〕
黒田喜美子(011014)
山下 麻衣(011015)

幹事選挙の公告

八月二十三日の総会で、第六期幹事の改選が確認されました。これにより「日本看護歴史学会幹事選挙規則」に基づき、本会報の発行日をもって幹事選挙公示日といたします。投票期間は、発行日より三ヶ月後の二〇〇二年一月二〇日(当日消印有効)までとなります。

投票用紙は同封のものを使用し、幹事に相応しいと思う会員一〇名を連記し、同封の投票所宛の封筒を使用し、無記名で郵送して下さいようお願いいたします。

なお、幹事の任期は会則で六年を越えて在任できないように改正されていますので、念のためお知らせします。

日本看護歴史学会幹事選挙規約

第一条 この規約は、会則第七条第一項に定める幹事選挙に関して規定するものである。

第二条 日本看護歴史学会の幹事の定数は一〇名とする。

第三条 選挙人及び被選挙人の資格は、幹事選挙の行われる年度に発行される日本看護歴史学会会員名簿に記載されている者と

する。

第四条 選挙管理委員会は、改選の年に開催される総会の場で会員により選出された三名の選挙管理委員によって組織される。

第五条 幹事選挙の公示は、日本看護歴史学会会報の紙上においておこなうものとする。

第六条 幹事選挙の投票は、選挙管理委員会の規定する投票用紙を使用し、一〇名を連記し、日本看護歴史学会選挙投票所へ無記名で郵送するものとする。

第七条 投票期間は、会報発行日より三ヶ月とし、その最終日当日の消印のあるものは有効とする。

第八条 開票の結果、得票順に上位一〇名の者を幹事候補者として幹事会に推薦する。尚、第一位の者が複数以上あった場合に限り、該当者すべてを幹事候補者とみなすものとする。

第九条 幹事会は、幹事候補者に対して就任の可否を確認する。

第一〇条 幹事選挙の結果は、選挙ごとに最も早い時期に発行される日本看護歴史学会会報紙上に発表し、承認は総会の場で行

うものとする。

第一条 幹事の中より欠員が生じた場合の補充は行わない。

付則一 この規約の改廃は、総会の場で三分の二以上の支持があった場合に成立する。

付則二 この規約は一九八九年八月二日より施行する。

付則三 この規約は一九九八年八月七日より施行する。

選挙管理委員会氏名

総会の場で選任された選挙管理委員は次の通り(五〇音順)

- 岩 脇 陽 子 氏
- 植 村 小夜子 氏
- 竹 中 京 子 氏

※ 尚、年会費を三年以上滞納された方には投票用紙は送付されませんので、御諒解下さい。

◆会費納入のお願い

本年度の会費(四〇〇〇円)を同封の振り込み取扱票にて納入お願いいたします。

本会は、皆様からの会費収入で運営しております。ご協力をお願いいたします。未納額を確認されたい方は、会計の大平政子氏(〒467-8601 名古屋瑞穂区瑞穂町川澄一番地 名古屋立大学看護部)へお問い合わせ下さい。

編集後記

名古屋市立大学看護学部棟における「日本看護歴史学会第一五回大会」は、大会テーマ「看護史をひろげるに相応しく盛況に終わる。大場先生の講演でキュリー夫妻の人間として、科学者としての生き方に感銘。先生の史実を探究する姿にもまた感動。小玉先生の一〇年に及ぶ貴重な看護史の旅写真の数々から熱いもの届く。

(藤)

日本看護歴史学会会報第三十七号 発行責任者 藤村龍子 東海大学健康科学部 編集責任者 福本 恵 京都府立医科大学 医療技術短期大学部	事務局 〒602-0857 京都市上京区 清和院口寺町東入 中御霊町四一〇 京都府立医科大学 医療技術短期大学部 岡山寧子・福本 恵 〒467-8601 名古屋瑞穂区瑞穂町川澄一番地 名古屋立大学看護部 Email: okayamay@cml.kpu-m.ac.jp
---	---